

琉球大学学術リポジトリ

巻頭言

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学院教育学研究科 公開日: 2020-04-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高良, 倉成 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/45669



巻頭言

教育学研究科長 高良倉成

2006 (H18) 年の中教審答申(「今後の教員養成・免許制度の在り方について」)で「専門職大学院制度を活用した教員養成教育の改善・充実を図る」ことが提言されたことを契機に、専門職学位課程が教育学研究科の中に増設されるかたちで教職大学院の整備が急速に進み、現在ではほぼすべての都道府県に設置され、入学定員は全国で 2,000 名を超えるまでになりました。また、教育学研究科にすでに設置されていた修士課程の廃止すなわち教育学研究科の専門職学位課程への一元化も全国で急進展しており、本学の教育学研究科も 2020 (R2) 年度から一元化する予定です。

他方で、最近の中教審のワーキンググループでは、義務教育における学級担任制を重視する段階と教科担任制を重視する段階の区別のあり方の見直し、養成・免許・採用・研修・勤務環境等の相互の整合性や一貫性の再検討、教師の専門性向上のための仕組みの見直しなどが検討中のようです。またそれらの検討と同時並行的に、学士課程の段階での教員養成に関しては、ほとんどの校種・教科の教職課程を備えた(いわゆるフルスペックの)養成機関が全都道府県に存在するという状況の見直しも検討されています。

つまり、養成・免許・採用・研修等の一連の繋がりが見直されている中で、また学士課程の段階での教職課程の設置分布が再検討されている中で、さらには修士課程の廃止が進展する中で、教職大学院については、全都道府県への設置とそのさらなる強化・拡充が推進されていることとなります。

以上のような動向すべての根幹にあるのは、第一に、急速に進む少子化に付随して学校(小学校から大学まで)の規模や配置分布を見直すこと、第二に、学習者が学校で身に付けるべき資質・能力とは何なのかを見極めつつその教育指導を担う教員の職能を養成・増進する制度的条件を再編することだと思われます。

日本教職大学院協会は、「より高度な専門性を備えた教員の養成と教職課程改善のモデルとなる」ことを教職大学院の使命として謳っています。学士課程段階の教職課程が再編成される中で「教職課程改善のモデルとなる」こと、修士課程が廃止される中で「より高度な専門性を備えた教員の養成」を担うこと、そして養成段階に後続する現職教諭の教職的力量的増進に貢献すること、それが教職大学院に求められているのでしょう。教職大学院は、養成段階での教職的力量的の育成にどのようなモデルを提供するのか、また現職教諭のOJTによる力量増進と整合的・親和的な「より高度な専門性を備えた教員の養成」をどのように具体化するか等について、すでに本学の教職大学院は一定の成果と経験を有していますが、さらなる改善・充実に向けて歩んでいきたいと思えます。